

平成29年度
自己点検評価報告書

目白大学短期大学部

(1) 特筆すべき事項

【教育】

- ①授業改善に取り組んだ。アクティブ・ラーニングの導入、座学における工夫等で学力レベルの差が大きい問題に関しても様々な取組で魅力ある授業に取り組んだ。共通テキストを使用しての「ベーシックセミナー」は3年目に入り、平準化できてきている。また、内容に関しても概ね充実したものになっている。
- ②製菓衛生師1期生の製菓衛生師観連科目の成果をみる「製菓衛生師」試験に全員合格を果たすことができた。
- ③資格取得に関して、年々取得状況が向上してきている。MOS検定は多くの取得者(word 16名)を出すことができた。リテールマーケティング、日本語検定、秘書検定、簿記検定等でも多くの学生が受験し、結果を出している。
- ④「学生による授業評価」を学内に公開した。機関を定めて、図書館に閲覧できるように備えた。

【研究】

- ①論文発表が低調である。学内紀要の投稿、採用、学会誌への投稿、発表等が低調であった。
- ②日本ゴルフ学会関東支部受け入れ金が1件あった。
- ③「日本語表現」科目の授業に関する研修会を行い、授業改善に関する研究を実施した。

【学生指導】

- ①中退者の防止に短期大学のシステムを確立し、担任、学科長、特命学長補佐が学生の面談にあたった。昨年度より中退者を減少させることができた。
- ②就職指導をはじめ学生の進路指導に全教員が関わり成果を上げることができた。
- ③学内行事、学外のボランティアなどに積極的な参加を推奨した。

【社会貢献】

- ①公開講座を実施し、多くの参加者を動員することができた。
- ④神楽坂まち飛びフェスタ「目白大学出張！文化祭」ワークショップに出店し、学生が地域住民と交流した。
- ②西武信用金庫「地域産業応援資金」プロジェクトにより「ブルーベリーパン」を株式会社ロイダールにて製造し、学生による販売を実施した。

【組織マネジメント】

- ①PDCAサイクルを確実に実施することに注力し、当初の目的を果たすことができた。
- ②学科長連絡会、PD会議等を通じて学科間の意思疎通を図ることができた。
- ③入試業務に関しては学科間でのばらつきがあったが、入試小委員会が活発にその役割を担い、短大としてスムーズに運営することができた。

(2) 今後の課題

【教育】

- ①事前学習、事後学習についての課題はまだまだ不十分の科目が多く、31年度において、重点項目としたい。
- ②成績評価の基準作りに取り組み、各教員1科目に関してはルーブリックの作成を果たして試行しているが、引き続きルーブリック作成を行う。

【研究】

- ①論文等の研究成果の公表が不活発であり、活性化できるように研究時間の確保、環境の整備に注力したい。
- ②学科内、短大内の共同研究を推進していく。

【学生指導】

- ①困り感のある学生の情報を即座に教員間で共有する。
- ②中退者予防に一層の努力をする。
- ③就職、進路に関する指導を個々の学生の状況に合わせて行う。
また、学科内での学生の情報をタイムリーに共有する。

【社会貢献】

- ①短期大学部として、学生を巻き込み積極的に教員がかかわる機会を増やす努力をする。

【組織マネジメント】

- ①31年度に向けて、新学科のスムーズな運営を計画する。
- ②短大構成員の委員会等の負担が大きいため、効率的な運営を目指し、負担を軽減する。
- ③提案型の構成員をめざす仕掛けを作る。

【その他】

- ①学科に所属する教育専任教員の位置づけが難しいものがあり、検討する必要がある。
- ②学科所属の助手の学科間の業務量にばらつきがあるので、検討する必要がある。
- ③卒業生との連携を密にする仕掛けを検討する。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート02 (学科長記入)	組織名称 (評価单位名称)	短期大学部 生活科学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の学力レベル差が大きい問題を解消するために、座学では飽きさせない変化のある授業を組み立てるため、理解を深めやすい資料の工夫をした。実習科目では、事前に完成見本を提示するなどして、学生たちがイメージしやすい指導に努めた。 2. 「インターンシップ」では、予定していた夏期休暇中に全員が就労をすることができた。また、本年度初めて履修学生の中からキャリアセンター主催の就職を見据えた短期インターンシップに参加する学生が出た。 3. ビジネス社会学科と取り組んでいる「ベーシックセミナー」は毎週実施する教員打ち合わせにより、指導内容がかなり精査された。 4. 検定推奨科目ではかなりの補講を実施した。その結果、ほとんどの検定で昨年度と比較して合格率が向上し、1級合格学生の中から「文部科学大臣賞」を受賞した検定と、短大全体での「団体優秀賞」を受賞した検定が出た。また、不合格学生の再チャレンジ率が格段に上がったことから、検定への取り組みにより学習姿勢の向上がみられたことは評価に値する。 <p>(2) 今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習と事後学習を毎回提出させた科目もあったが、履修者が多く教員の負担が大きく苦慮した。 2. 学生自身に考えさせる指導方法の更なる工夫が必要である。 			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 『目白大学短期大学部 紀要』第54号へ論文を3件応募したものの2件は途中で取り下げ、残りの1件も査読により不合格になったことから、昨年度の4件から0件へと激減した。また、昨年度は目白大学教育研究所『人と研究』の発表も1件あったが、こちらも本年度は0件で昨年度と比較してかなり低調であった。 2. 学会発表も昨年度の4件に対して1件という結果であった。 3. 昨年度0件だった書籍物出版は1件あり、編者として作成に携わった。 4. 学会の研究会等への参加総回数は向上したが、教員1名と助手全員の参加は全くなかった。 5. 科研費助成金に共同研究者として1名が申請した。 <p>(2) 今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各教員の研究テーマは明確であるが深耕していない。紀要への応募や書籍物出版、学会発表等への参加を増やすために、学科全体で研究職として就労していることの認識を深める必要がある。 2. 学会の研究会等への参加がしやすいよう、休日出勤体制を検討する。 			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次春学期より担任面談を通して、遅刻や欠席などをかなり厳しく指導した。同時に、保護者との連絡を密にしたことで、生活習慣の乱れや学習意欲の低下による退学が減少した。 2. 生活科学ゼミナールでは学習面でのレベル差を抱えて苦慮したが、全員が論文の提出条件をクリアすることができた。 3. 就職活動に前向きな学生に対しては十分な情報提供や履歴書・エントリーシートの記入方法などの指導が功を奏し、希望企業への内定につなげることができた。 4. 学生会の七夕祭では、浴衣の手配や着付け指導等でかなりのバックアップを行った。 <p>(2) 今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 就職活動の欠席扱いに関するルールが、一部の非常勤講師に徹底されなかったことが課題である。 2. 就職率は低迷したが、未内定学生の内訳をみると精神的な問題を抱えている学生など特殊な事例が多かった。早期にコミュニケーション能力不足の学生でも対応できる求人等の把握に努める必要がある。 			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「第三者評価評価委員を委嘱され、担当短期大学の評価委員の一員として携わった。 2. 西武信用金庫主催「物産・逸品見本市」において、教員が企業相談ブースを担当した。 3. 神楽坂まち飛びフェスタ「目白大学出張！文化祭」ワークショップブースを1ゼミが担当し、小物制作を通して地域の方々と交流ができた。 4. 桐和祭「もの作り体験教室」において希望学生を指導して実施したところ、参加者から大好評を得た。 5. 西武信用金庫主催「物産・逸品見本市」において、1ゼミが販売ボランティアとして学生を参加をさせた。事前に出店社の企業研究や販売方法の練習等を実施することで、就職を意識した教材としても活用することができた。 <p>(2) 今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本年度も地域貢献としての「神楽坂福祉施設 神楽坂」におけるリハビリ手芸等の体験教室を開催することができなかった。 2. 社会貢献項目のどの項目にも該当しない教員は、積極的に関わることが課題である。 			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PDCAサイクルを充実させるために、昨年度より各行事実施後に全教員からの振り返りや来年度に向けた気づきなどを含めた報告書を残しPDCまで完成させていた。本年度はそれらの蓄積した情報を活用したA段階を踏んでの対応が実施でき、各行事の精度がかなり向上した。 2. 教員・助手の全員が退職することなく2年目を迎えたため、全ての業務を計画的に運営することができた。 3. 入試業務に関しては、入試委員会を中心に改善に向けて全教員が一丸となって前向きに取り組むことができた。その結果、オープンキャンパスにおけるコミュニケーション能力などの情報を活用することで合格判定の精度が上がった。併せて合格水準を若干上げたが、最終的に定員を確保することができた。 4. 年度末に専任教員2名の退職が急遽確定したが、授業担当者や時間割の変更での問題を何とかクリアすることができた。 <p>(2) 今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員と助手がお互いの立場を理解して、円滑な業務分担を図ることが課題である。 			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活科学科としての最終入試業務を無事終了することができた。 2. 特命学長補佐が平成31年度の歯科衛生学科（仮称）新設および、ビジネス社会学科の改組に向けての準備作業に追われ、例年以上に多忙を極めた。しかし、なんとか他教員で諸業務をカバーすることができた。 <p>(2) 今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 休日や長期休暇中の行事や業務の時間的な調整をして、専門領域の学会参加や研究調査を実施するための時間を確保することが課題である。 2. 懸案であるアクティブラーニングについての研究が課題である。 			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート02 (学科長記入)	組織名称 (評価单位名称)	短期大学部 製菓学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①製菓衛生師関連科目に関しては、目標としていた全員合格が達成でき、試験直前の補講も含めすべての担当教員の成果であったと思う。</p> <p>②実習班単位で作業することの多い授業では学生同士がそれぞれの役割を認識し協力し合いながら思いやりをもって作業が進められるよう心掛けた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①同一科目においてコースによって学生の出席状況・授業態度など温度差が出ないよう極端に試験対策に偏らないよう配慮が必要である。</p> <p>②ゼミ作品において次年度も賞を頂けるレベルに上げることを目標に指導する。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①製菓に関する紀要を発表、製菓コンテストへの出品など専任教員が研究としての学科業務を遂行した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①紀要への投稿に関し投稿を促す必要がある。</p> <p>②米屋株式会社との連携に関し今後の関係性を含め意見交換をしていく。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①面談結果を学科会議で共有したり、全学生の就職活動状況をリスト化することで、学科全体で学生をフォローし柔軟な対応を行った。</p> <p>②特殊な家庭の事情で止むを得なかった1名と進路変更の1名が退学したが担任は概ね問題なく指導した。</p> <p>③就職活動支援に関しては、目標としていた希望者内定100%が達成できたのは学科教員全体の成果であったと思う。一方で目的もなく就職も希望しない学生も皆無ではないのでそうした学生の対応も改めて検討が必要である。</p> <p>④困り感のある学生及び保護者に対する担任教員の対応は明らかに不十分であったが担当部署との連携で拡大することなく収めることが出来た。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①就職に関しては本年度は順調であったが早期の離職が無いよう身の自分にあった会社選びから指導していく。</p> <p>②困り感のある学生、グループ作業に問題があると思われる学生に関しては早期に教員相互で情報を共有し対応にあたる。この際助手からの意見も大いに参考にしていく。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①「バレンタインデー体験実習」「親子体験実習」「公開講座」を開催し製菓学科と製菓全般の周知は図れた。</p> <p>②「販売実践」の授業における売上金全額を被災地義援金として日本赤十字社に継続寄付した。</p> <p>③開催を検討している福島県東白川郡矢祭町での農村体験型教育旅行の本年度開催に向け具体的計画案を作成中である。</p> <p>④「公開講座」開催により製菓学科の存在をアピールできた。</p> <p>⑤西武信用金庫主催、東京物産・逸品見本市に出展し販売促進ボランティアとして短大生30名が参加した。</p> <p>⑥西武信用金庫「地域産業応援資金」プロジェクトにより本学科非常勤講師考案による「ブルーベリーパン」を株式会社ロイスダールにて製造しビジネス社会学科の学生により2日間販売をし完売した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①株式会社ナポリアイスクリームとの包括連携が今年度をもって解消されることになり今後の連携について検討が必要である。</p> <p>②例年参加を続けてきた新宿高島屋「大学は美味しい」フェアの開催が今年度をもって終了することになり今後の対応の検討が必要である。</p> <p>③3者コラボを計画していた「短大ひとくち羊羹」新味に関しては原材料作製上と施設管理面に課題があり慎重に検討していく必要がある。</p> <p>④社会貢献、地域貢献に関しては、教員の個の大きな負担にならぬよう検討していきたい。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学内外及び受験生、保護者、卒業生に向けて製作した製品や作品を通じて製菓学科の授業等を周知する目的でメジスイーツブログを継続管理運営し閲覧数は安定している。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①メジスイーツの管理運営に関して、個人を特定できる画像の掲載を拒否している学生が居るので慎重に運営していく。</p> <p>②食品を扱う学科として衛生管理は徹底していく。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>助手の選考並びに採用に関しては特異な分野であることを考え、慎重な上早期に適材の確保が必要と考える。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>引き続き桐和祭開催時に訪れてもらえる多数の卒業生の為のコミュニティスペースの必要と考える。</p>			

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート02 (学科長記入)	組織名称 (評価单位名称)	短期大学部 ビジネス社会学科
項目	自己評価 ※箇条書きにて記入			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①リテールマーケティング検定試験では、4年連続で全国の短期大学で唯一の1級全科目合格4名・科目合格6名(合格率100%)、および2級合格20名(合格率86.9%)、3級合格28名(合格率78.5%)の取得者を輩出した。</p> <p>②秘書技能検定試験では、1級合格者1名(取得率20.0%)、2級合格者40名(取得率65.5%)の取得者を輩出した。</p> <p>③MOS検定 (Word2013) 16名、日本語検定3級5名・準3級11名(受験者26名)の取得者を輩出した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①1年生時の春学期のベーシックセミナー、秋学期の「キャリアデザイン」授業担当をクラス担任が持つことになり、教員と学生とのコミュニケーション機会が確保された。クラス担任として、学生との個人認識・状況把握が確立されたこの環境を生かし退学・留年学生を減少させる肌理の細かい対応に取り組んでいく。</p> <p>②日本語検定、漢字検定については実施時期が重なり、低水準の資格取得者となった反省から、実施時期の検討および受験する級の選択に関する指導を徹底し、改善を図る予定である。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学内特別研究助成獲得者1名、日本ゴルフ学会関東支部受入金1名</p> <p>②「目白大学短期大学部 紀要」第54号への論文発表者1名、学外発表雑誌への論文掲載1名(2件)</p> <p>③学会発表：日本ビジネス実務学会(口頭発表)、秘書サービス接遇教育学会(パネリスト)、日本体育学会第68回大会、GIS Day in 東京、8th International Conference on Human Factors and Ergonomics(海外)</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①新規の科学研究費獲得者はゼロであり、次年度へ向けての対策を検討する。</p> <p>②学内特別研究助成獲得者も、1名のみになり留まり次年度へ向けての対策を検討する。</p> <p>③「目白大学短期大学部 紀要」への執筆を始め、学会誌への投稿などへの促進対策を検討する。</p> <p>④一部教員に学会・研究会に所属せず、参加活動がない状況の改善策を検討する。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①クラス担任が学生の出欠集計状況を確認し情報の把握を行い、学生への電話指導・個人面談を実施した。また得た情報は学科内全教員で共有する事で常に誰もがどこでも即応できる体制を構築し実施した。</p> <p>②遅刻・欠席が目立つ学生には、担任のみならず全教員が授業時に注目して対応策(注意・カウンセリング)を実施した。</p> <p>③クラス担任・ゼミ担当教員が連携し、キャリアセンター主催の就職ガイダンスや就活セミナーへの参加率に注目し、将来に関する意識付け対策を実施した。</p> <p>④桐和祭、スポーツフェスティバル等の学校行事へも積極的に参加する事で、短期大学部・ビジネス社会学科への帰属意識を高めさせる施策を実施した。</p> <p>⑤クラス担任とゼミ担当教員が連携し、「出席率の向上」を目標として、頻繁な学生とのコンタクトによる対面率の維持、および保護者との電話・面談を実施した。期末結果は前年を大きく下回る数値(退学者1年生2名・2年生1名、留年生1名)となり、退学・留年学生を共に減少させることができた。次年度へ向けても、同様の施策を継続・強化して、さらなる減少に努めていく予定である。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①さらに漏れのない個別的な学生ケアを確実に実施する為に、学生情報を収集する「記録・報告フォーム」を設定し活動を展開する。</p> <p>②年齢的な面も考慮した上で、自己将来キャリアーへの意識付けや知識(一般教養)が低レベルである学生への対策をさらに強化する。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①例年の活動として、文京区本郷法人会の「財務諸表講座」、株式会社トーハンの「流通業講座」を開催し社会貢献に努力した。</p> <p>②西武信用金庫の地域応援資金を活用して、地域貢献活動を実践した。製菓学科が開発したオリジナルのレシピを中野区の洋菓子店「ロイスダール」へ委託しパンの製造を依頼した。その後、学科としてパンのネーミング・パッケージ・販売などの企画運営を担当し、新井薬師での地域町興し活動に参加した。地域住民の皆様からは好評を得た活動となった事は勿論、学生達にとっても貴重な体験となった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①今後、多くの教員が産学連携、地位貢献活動についてさらに理解を深め、積極的に係る事を期待して推進する。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①常に同一レベルの情報を共有化した上で、目標に向かって活動を押し進める環境づくり設定の為、月1回の学科会議に拘らず臨時の会議を開催し、学生対応/学科・短期大学部対応/保護者対応などすべての面での即応体制を目標レベルまでに強化構築した。</p> <p>②多くの教員が複数の担当委員や短期大学部内イベント担当として職務を理解し精力的に遂行し、高い成果を達成した。</p> <p>③学科長と教員とのコミュニケーションの活発化を目指した「つぶやきの収集」の取組みを実践(提案・実行型組織の確立)した。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①学科構成教員数の事由から、多くの教員が委員会・その他業務担当を重複している現状を直視し、適切な組織運営を検討する。</p> <p>②次年度に大幅に改編となる学科体制に関して、学科としての新学科運営体制に向けての準備を確立しスムーズな導入を目指す。</p> <p>③新学科体制に伴う各教員の担当科目について、適切な配分(業務指示)・コマ数となるように準備作業を進めていく。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①平成29年度も10月の桐和祭開催時に、ビジネス社会学科として「ホームカミングデイ」を実施し、多くの卒業生が参加し、企画としては成功した。今後もOGとの融和は勿論、将来的な志願者とのつながりを意識した宣伝効果も図っていく予定である。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①上記したように3年目の「ホームカミングデイ」を開催したが、参加人数がまだ不十分であり、さらなる周知徹底に向けて検討を行い有意義な企画としての定着を図っていく予定である。</p> <p>②学科主催の公開講座開催については、「授業形式」には人気がなく「コト的授業」に関心が寄せられる傾向があると分析し、新たな企画案を目指した。しかし、今年度は学科に関連づけた講座設定ができず未開催となり、次年度への大きな課題となった。</p> <p>③H31年度より新たな学科体制となる事から、オープンキャンパス企画の再点検・充実は勿論、さらに合格者人数管理が重要な課題となる為、入試広報部との綿密な情報共有・協力体制を構築した上で、確実な定員確保を図っていく必要がある。</p>			